

平成 30 年度（平成 29 年度分） 学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 30 年度（平成 29 年度分）自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局 (元事務局長)
- (委員) 大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員
テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 鈴木 靖子 公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 星野 学 本校卒業生代表、花屋「朧月」代表
- 岡部有希子 本校卒業生代表 (欠席)
- (事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
- 古谷 民子 同 教務部長

2. 実施日時 平成 30 年 11 月 30 日 (金) 10:00~12:00

3. 平成 30 年度（平成 29 年度分）自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

本年度、情報公開は行ったが、引き続き理念・目的・育成人材像などは外部に発信し続けること

2) 学校運営

大よその運営方針や事業計画は定められているので、適宜見直して改訂を行いながら、それにそった運営をすること

3) 教育活動

- ・教育課程編成委員会を開催しているが、そこでの意見や世間の動向をふまえながら常に最善のカリキュラムとなるように編成してほしい
- ・特に生産分野の授業では、可能な限り外部の見学や研修を取り入れ、最先端の知識や技術を身につけさせてほしい
- ・専門コース以外の園芸に関する知識・技術を一通り学べるということは、仕事をする上では大いに役に立つため、継続してほしい
- ・農場生産物の販売やフラワーデザインの作品についての人気投票など、学生たちの成果を客観的に評価できる体制が整っていることは評価できるが、より多くの機会が設けられると更に良いであろう

- ・引き続き、学生が自主的に様々なことに取り組めるような雰囲気醸成や制度の整備に努めてほしい
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供については今以上に密にすべきであろう

4) 教育成果

- ・就職率、資格取得率は高い水準を保っているので評価できるが、今後は数値だけでなく質の向上も図っていくことを期待する
- ・特に就職の質の向上ということに関しては、生産分野の就職先の新規開拓が喫緊の課題であり、具体的に進める体制づくりが必要だろう
- ・学生が在学中にできるだけ多くの資格を取得できるように、資格対策授業や受験案内を提供していることは評価できるが、学生が自ら積極的に取得するように指導していくと更に良いであろう

5) 学生支援

- ・学生からの相談を担当やコース担当が担っているが、カウンセラーの採用についても引き続き検討していくとよいであろう
- ・2月に行われた開校30周年記念同窓生をきっかけに同窓生への支援体制をぜひ強固なものへと整えていってほしい
- ・同窓生に対する講座の実施を是非検討してほしいが、その際ニーズをつかむことが重要である

6) 教育環境

- ・校舎外壁補修と空調設備全面改修によって校舎内の環境は問題ないが、特に農場の施設・設備については経営上可能な範囲で整備を続けていくべきである

7) 学生の募集と受け入れ

- ・募集活動そのものは問題なく行われているとはいえ、それが学生数の増加という結果に結びついていないのが現状であり、そのことに対しての学校としての危機感が希薄であることが最も問題であろう
- ・正規課程以外にも世間のニーズをふまえた課程も検討すべきである

8) 財務

- ・中長期的な安定を図るうえでも、特に学生数の増加に全教職員で注力すべきである

9) 法令等の遵守

- ・学校情報は公開しているので、有効に活用し積極的に問題点の改善につとめてほしい
- ・最近あらゆる企業・団体等で倫理観が欠如した状況がみられることから、特に

個人情報などを扱っている学校においては、一切の問題がないように常に点検し
対応していくべきである

10) 社会貢献

- ・地域の講座等を実施しているようなので、引き続き学生をアシスタントにつかせるなどしてコミュニケーション能力の醸成にも役立ててほしい

3. 総評

上記 10 項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、学生募集に関しては学生数の増減は財務だけでなく教育活動や学生支援、教育環境など、多岐にわたり影響を与えることから、教職員一丸となって学生数の増加に努めることを望みます。

以上